

理事長挨拶

2月1日に、洛西ニュータウン病院は医療法人清仁会の病院として新たなスタートを切りました。これで清仁会と洛西ニュータウン病院との間で、医師をはじめとする職員の交流、患者のやりとり等が一層緊密にできるようになりました。これを契機として、4病院間の連携並びに病院と老健等の施設及び介護事業所との連携がこれまで以上に促進され、シミズ病院グループとしてのメリットが最大限発揮できるよう、地域医療連携室を中心として職員一人一人がそれぞれの立場で努力していただきたいと思います。よろしくお祈りします。

洛西ニュータウン病院 清仁会としてスタート

約2年前から洛西ニュータウン病院の法人化を検討してきましたが、平成25年2月1日から医療法人清仁会として新たにスタートを切りました。

洛西ニュータウン病院は、平成18年4月関西医大の附属病院から清水幸夫の個人病院として開設され、7年近く過ぎ箕浦院長次いで咲田院長の尽力と職員の方々の努力により収益も年々改善しつつあります。今回、洛西ニュータウン病院は名実共に清仁会と一体になったと言えます。

国の医療費抑制の流れが今後も続くことと見られることから、これからもシミズ病院グループとして一層の効率化、合理化が求められます。また、最も大切なことは、4病院を中心としたグループ内の連携であり、今後とも洛西ニュータウン病院が洛西ニュータウンをはじめとする京都市西部地域を支える重要な医療機関として更に充実発展すること祈念します。なお、2月1日ささやかな新洛西ニュータウン病院の開院祝賀行事を関係者にて催しました。



【清水幸夫理事長の祝辞】



【理事長から咲田院長への辞令交付】

シミズ病院 国道9号線千代原口アンダーパス開通に伴う救助訓練への参加

平成25年2月23日国道9号線千代原口立体交差アンダーパス(トンネル)開通に伴いトンネル内交通事故を想定した救助訓練が平成25年2月20日に実施されました。当院からは京都市消防局の依頼で重城副院長、小嶋師長が参加致しました。訓練には国土交通省、西京警察署、西京消防署、当院の他全3病院より医療関係者等が参加しており総勢70名程で訓練を実施しました。訓練はトンネル内で車3台による交通事故で、事故後火災発生、負傷者10名程の被害状況を想定し、重城医師、小嶋師長は負傷者の救命救急活動に参加し救出された患者に対してのトリアージ、応急処置を担当しました。

多数の警察・消防車両も現場へ配置され訓練現場には緊張感があり、参加多職種連携に至るまで訓練は及んでいました。訓練とは言え現場は騒然としており、実際に事故が起こった時を考えると寒気を感じました。開通後、この訓練が実際のものとなることのないことをただ願うばかりです。



【トリアージを行う重城副院長と小嶋看護師長】

1



【トンネル内の救助訓練の状況】

洛西ニュータウン病院 尿量測定検査機器の紹介

洛西ニュータウン病院泌尿器科は常勤医師3名・非常勤医師1名による診療体制です。

昨年より尿量測定検査機器を導入いたしました。おしっこが出にくいなどの排尿障害のある患者さんの診断・治療に有用な検査です。排尿障害を少しでも感じておられる患者さんがあれば、尿流測定検査をお奨め下さい。

また、当院では、「京都市前立腺がん検診精密検査医療機関」に登録されています。PSA検査で異常値のある患者さんがおられましたら、ご紹介下さい。どうぞよろしく願いいたします。

詳しくは、洛西ニュータウン病院泌尿器科へお問い合わせ下さい。TEL075-332-0123(代表)

	月	火	水	木	金	土
午前(1診)	福井 勝一	益田 良賢	福井 勝一	高橋 彰	益田 良賢	(担当医)
午前(2診)	岡村 靖久		高橋 彰			

I はじめに

当院においては前立腺肥大症や神経因性膀胱など排尿障害を来す疾患を持つ患者さんに関わる機会は非常に多いと思われまます。排尿障害の自覚的・症状の評価方法としては、IPSS(International Prostatic Symptom Score＝国際前立腺症状スコア)という質問表がありますが、排尿障害の程度は患者ごとにその感じ方に大きく差があり、他覚的・定量的にその程度を評価法が必要である。尿流測定検査(Uroflowmetry)と残尿量測定検査が行われるが、昨年泌尿器科外来に、尿流測定検査機器(TOTO尿流量測定装置『フロースカイ®』UM-100)が導入されましたので検査の実際を提示します。

II 検査の対象患者

- ・排尿障害(特に尿の排出障害)のある患者さん。
- ・立位または洋式便座座位で排尿可能な患者さん。
- ・女性も可、小児も可、特に禁忌はない。

III 検査の実際

- ・尿を多めに貯めて頂き、便器に向かって排尿する。
- ・立位でも座位でも可。(同一患者に複数回実施するときは同じ体位での測定が望ましい)
- ・排尿終了後、尿流量曲線と各種データが記録される。
- ・評価項目は総排尿量(VV)、最大尿流量(Qmax)、平均用流量(Qave)、排尿時間(VT)、最大尿流量到達時間(TTPF)、ためらい時間などである。
- ・検査後に残量をエコーまたは導尿または「ゆりりん」(残尿測定装置)にてチェックする。

IV 検査の特徴

- ① 低侵襲(無侵襲)
- ② 排尿状態やその変化がビジュアル的にわかりやすい
- ③ 繰り返し行える(失敗しても次の排尿まで待てばよい)
- ④ 150ml程度は蓄尿できていないと十分な評価ができない
- ⑤ 病名: 男性 前立腺肥大症、尿道狭窄
女性 尿道狭窄、神経因性膀胱
- ⑥ 患者さんへのメリット: 通常の洋式便器の形態のためリラックスして行える



尿量測定装置
TOTO「フロースカイ®」UM-100